



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年5月9日) 第5号



八鹿青溪中 HP

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

但馬春季大会(部活動)の結果

◆野球 優勝🏆 ※関宮学園との合同チーム

八鹿青溪・関宮 7-0 大屋・養父 八鹿青溪・関宮 2-1 日高東
八鹿青溪・関宮 9-0 豊岡北

◆ソフトボール 優勝🏆

八鹿青溪 7-1 養父・和田山 八鹿青溪 4-3 豊岡北

◆バスケットボール

<男子> 浜坂 61-34 八鹿青溪 豊岡南 69-35 八鹿青溪
<女子>

◆ソフトテニス

<男子> 団体戦 第3位 予選リーグA 1位通過
決勝トーナメント 八鹿青溪 3-0 出石 朝来 2-1 八鹿青溪
3位決定戦 八鹿青溪 3-0 養父

※研修の部 準優勝

※個人戦 優勝🏆
第3位

<女子> 予選リーグC 1位通過
決勝トーナメント 豊岡北 2-1 八鹿青溪

※個人戦 準優勝

◆バレーボール 第3位

八鹿青溪 2-0 港 八鹿青溪 2-1 香住一 日高西 0-2 八鹿青溪

◆卓球

<男子> 八鹿青溪 3-0 養父 但東 3-1 八鹿青溪

<女子> 準優勝
八鹿青溪 3-0 出石 八鹿青溪 3-0 浜坂 村岡 3-1 八鹿青溪
※個人戦 第3位 第5位

部活動の応援に行くと・・・

部活動の応援に行くと、普段の学校生活とは違った生徒の新たな表情に触れることができ感動します。例えば、勝利をめざした真剣な顔つきや与えられた任務に責任を持つ使命感溢れる顔つきなどです。これらは、いつもの学校生活とはひと味違った表情です。また、あちらこちらの試合会場で応援の保護者の皆様からご挨拶をいただき嬉しく思います。時には、親となっ



たかつての教え子と言葉を交わして昔話に花が咲くこともあります。さらには、香美町立香住第一中学校の生徒たちから挨拶を受けることもあり胸が熱くなります。というのは、私の前任校は香住小学校ですから、その時の児童が中学生になっており、私の顔を覚えているのか挨拶をしてくれるというわけです。このように部活動の試合会場に足を運ぶということは多くの“発見”や“再会”があり、私にとって大きな楽しみのひとつになっています。

5月の全校集会 ※一部抜粋

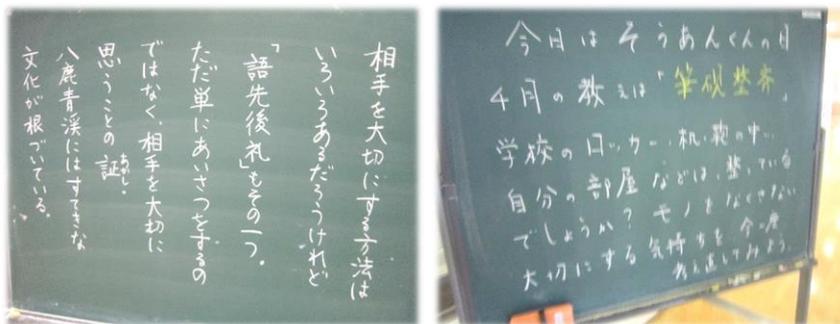
5月7日(火)、全校集会を行いました。

“4月の中旬から下旬にかけて部活動の春季大会(通称:オープン戦)があり、いろいろな競技の応援に出かけました。どこの試合会場でも「八鹿青溪」や「YOKASEIKEI」と書かれたユニフォームを見ると応援に力が入ります。さて、この応援ですが、これはけっして各競技で勝利することだけをめざして応援しているわけではありません。それぞれの生徒が自分に与えられた仕事(道具運び、審判、応援等)を最後までやり遂げられることや会場で出会う人と明るく挨拶を交わしてくれることなどを期待して応援しているのです。だって、選手の皆さんは背中に「八鹿青溪」という看板を背負っているのですから。皆さんの善い行いは八鹿青溪中学校の好評につながりますし、皆さんの悪い行いは八鹿青溪中学校の悪評につながります。そんな中、野球部の試合で、打球を足に受けて倒れた相手投手のもとへ、八鹿青溪中学校の選手がコールドスプレーを持って即座に駆けつけたという報告を聞きました。これはスポーツマンシップにのっとった素晴らしい行動であり、私はこんな生徒がこの学校に居てくれることをたいへん嬉しく思いました。”



校内をウロウロ・・・

日頃は、八鹿青溪中学校の校内をウロウロとしています。生徒がどれだけ張り切って授業を受けているか、教員が授業づくりにどんな工夫をしているかなど興味は尽きませんが、いっぼうで、各学年フロアの板書に足を止めて見入ってしまうことがあります。本校の教員は日々生徒に向けて文字のメッセージを送ってくれています。



池田草庵先生の教えを各教員が分かりやすく説明した板書(4月某日)

5月の「草庵先生の教え」

5月は、「学は自得せんことを要す」(学ぶということは、頭で理解するよりも体を通して理解し、心で納得することが大切である)という言葉大切に学習活動を充実させていきます。

生徒には、断片的な知識をただ機械的に覚えていく勉強方法ではなく、五感を使って、かつ、自分に問いかけながら学びを深めていく5月にしていってほしいと思います。ICT機器の活用も有効でしょう。

いっぼう、我々教師にも日々の授業づくりについてしっかりと振り返り、生徒への指導や支援を充実させていくことが求められます。そして、生徒の学びや自らの授業を常に評価し続ける「指導と評価の一体化」を推進していくことが大切だと考えています。

5月 校訓 貫徹 慎独 創造

学は自得せん

ことを要す

学ぶということは、頭で理解するよりも体を通して理解し、心で納得することが大切である。

